

第1回基山町総合計画審議会

日 時：平成26年3月26日（水）15:00～

場 所：基山町役場 4階大会議室

出席委員：16名

森田昌嗣会長、林真実副会長

田口英信、原憲一、益田勝俊、平田百合子、鶴岡健治、時嗣男、原利廣

芳野勇一郎、落合裕二、中島しょう子、天野龍、江渕勉、内山順子、

篠原夏子

事務局：3名 企画政策課 木村課長、寺崎係長、亀山

傍聴者：2名

- 1 委員の委嘱
- 2 町長あいさつ
- 3 自己紹介、会長・副会長選出
- 4 会長・副会長あいさつ
- 5 諮問
- 6 議事
 - (1) 第5次基山町総合計画策定方針・スケジュールについて
 - (2) 基礎調査内容報告について
 - ① 町民・町外・職員アンケート調査について
 - ② 町民ワークショップについて
 - (3) 基本構想（原案）について
 - (4) その他
 - ① 次回審議会の開催時期について

1 委員の委嘱

事務局：本日は、日曜まで温かい日が続いておりましたけれども、ここ2～3日また寒くなりまして桜の開花が遅れたのではないかと考えております。今日は足元の悪い中、皆さん、遠くからみえた方もいらっしゃいましてご迷惑をおかけします。

それでは総合計画の審議会を始めていきたいと思っておりますけれども。その前に、まず皆さまに総合計画の審議員としての委嘱状の交付をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

2 町長あいさつ

町長：皆さん、こんにちは。このたびは基山町第5次総合計画審議会に18名の審議員の皆さま方が委嘱を快く承諾をいただきましてありがたく感謝申し上げます。そして本日は早速、公私とも大変お忙しい中、ご出席をいただき誠にありがたくお礼を申し上げます。

本町は古くから交通路要衝地として発展をしてまいりました。そしてここ最近、特に福岡近郊や久留米市のベッドタウンとしても選ばれ、豊かな自然環境と機能的な生活環境に評価をいただいております。また平成23年4月に県内初となるまちづくり基本条例を制定いたしました。第4次総合計画では「みんなで創る人と自然が輝くまち きやま」を将来像に掲げ、コンパクトな協働のまちづくりを推進しているところでございます。

今回策定いたします第5次総合計画は今後さまざまな社会的、地域的課題を解決して持続可能な町を目指すための指針、指南書となるものだと思います。九州大学の森田教授さまをはじめ、本日委嘱させていただきました皆さまはいずれの方々も各方面の第一線でご活躍されている皆さまでございます。活発な議論によって基山町にふさわしい総合計画を策定していただきますように期待をいたすと共に、このご縁をもって今後とも基山町の発展にお力添えをいただければ幸いです。いろいろご迷惑をおかけしますがどうかひとつ、よろしくお願いいたします。

3 自己紹介、会長・副会長選出

事務局：まず事務局のほうからご紹介させていただきます。私、企画政策課長をしております木村と申します。これから何度か来ていただいてご迷惑おかけしますがよろしくお願いいたします。こちらが企画政策課の総合政

策の係長をしております寺崎でございます。向こうが総合政策係の中で総合計画の担当をいたします亀山でございます。皆さまにいろいろご迷惑かけるかと思いますがよろしくお願いいたします。

それでは委員の皆さんの自己紹介をお願いしたいと思いますので、田口さんのほうからよろしくお願いいたします。

田口委員：皆さん、こんにちは。田口と申します。本業は基山町でメッキ加工の会社を営んでおります田口電機工業の社長をしております。きょうは商工会長という立場でこの審議会に参加させていただきました。第4次総合計画のおりにも私は、あのときは何を間違ったか学識経験者という立場でお邪魔させていただきましたがいろんな意見を出させていただきました。今回も基山の発展のために商工会を代表して意見を参加させていただいて、基山の発展につながるようにしていきたいなと思います。

もう1つ、神原玄應さんは観光協会の副会長でもありますが、実は私、観光協会の会長を兼務しております。二足のわらじを履いておりますので副会長の立場で神原さんに出てもらっております。もう1つは基山町の教育委員長という立場も受けております。三足のわらじを履いておりますから教育委員会を代表して中島さんに来ていただいております。そういったところも含めたいろんな意見を出すかもしれませんので、その辺はご理解、ご了承いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

原（憲）委員：皆さん、こんにちは。2番目に記載していただいております原憲一といいます。勤労者協議会、歴史的には50年を過ぎる基山町での活動歴史がありますけれど、その基山勤労協の事務局をしております。事務局20年ほどやっておりますので、田口さんと一緒ですけれども10年前の第4次の総合計画の策定の中でも委員としてかかわらせていただきました。それからもう10年経ったのだなというふうに思い起こしております。10年前、我が家庭はどうだったかなと振り返ると8人家族でした。4月以降は4人家族になりました。いろんな問題があると思いますけれども、基山町で一番問題として抱えているのが人口の減少、あるいは所得をいっぱい持ってきてくれる生産者人口の減少というのが一番の問題だと思いますけれども。勤労者の目線でぜひ発言をしていきたいというふうに思っております。

私、佐賀市のほうに勤めております関係で14時佐賀の仕事を終わりましたこちらへ来まして18時には違う仕事で帰らなければなりません。議論の過程の中では17時には出るようになると思います。事前にご了承のほうよろしくお願いいたします。以上でございます。

益田委員：こんにちは。私、区長会から出ました益田です。私も今言われましたように第4次総合計画のときに委員として参加させていただいております。本日、2回目ということになります。ひとつよろしくお願いいたします。

す。

平田委員：民生委員・児童員協議会会長職をことしで2期目に入りまして4年続けて会長職を務めさせていただいております。民生委員を地域の住民の方の一番身近にいる立場かなと思いますし、声も拾い上げられるのではないかなと思っております。きょうはこれから私自身も勉強させていただきながら今回と一緒に参加させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

鶴岡委員：消防団長の鶴岡と申します。今回初めてでございますので何も分かりませんけれども。うちは今、消防団が約200人で私も19年前、副団長に復帰しまして副団長を10年させていただきまして、今現在、団長を9年させていただいております。消防はあまり長居するものではないと人から言われますけれども、今回初めてこういった会に出させていただきまして一生懸命頑張りますのでよろしく願いいたします。

時委員：こんにちは。基山老人会の会長の時です。高齢者が非常にこれから多くなることは皆さん知ってのとおりです。私はそういう老人会の弱い人の立場に立って、どういうまちづくりをするのか、たくさん要望がありますので審議会の中で発言をさせていただきたい。どうかひとつよろしく願いいたします。

原（利）委員：農業委員会の原でございます。本来、会長がこういう席に出てくるのではないかと思いますけれども、「行って来い」と言われましたので今回初めて参加しております。よろしく願いします。

篠原委員：PTAの代表で出てきました篠原です。今、中学校のPTA副会長をしております。小学校、中学校と意見をまとめてこちらのほうに持ってきてたいと思います。よろしく願いします。

江渕委員：一般公募で参加するようになりました江渕と申します。よろしく願いします。

天野委員：同じく一般公募で参加させていただきます天野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私、町内の自営業者という立場で参加させてもらっております。私自身もUターンで帰って来た人間で、基山はいいなと思って帰って来たのですが、そういった若者の意見を代弁できるようなことが、微力ですけれども何か述べさせていただければなと思っております。

また、人口減少が課題というお話も出てきましたけれども、私自身、ま

だ子どもが1人ですのでもうちょっと、自分自身にとっても子どもが育てやすい環境というのはどういう町なのかというのを考えながら意見を述べさせていただければなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

中島委員：教育委員をしております中島と申します。15年ほど前に縁もゆかりもないこの基山に引っ越してきました、ほんとにこの町は素晴らしい町だなと思いまして家を建てて永住しようと思っております。この町の良さは外から来た人のほうがとても分かるのではないかと思います、その面からでも何かお話ができればなと思っております。よろしく願いいたします。

落合委員：こんにちは。県庁統括本部の総括政策官という役目をしております落合と申します。仕事のほうは名のおり、県庁の政策の全体調整のような役回りしております。3年前に今の県の総合計画2011をつくったときに政策官という担当の課長の立場で総合計画をつくりました。そういった経験も踏まえてこの審議会に参加できたらなと思っております。

家は唐津のほうで、唐津から佐賀に毎日通っています。唐津と基山と県の端と端みたいな感じで、基山のことを勉強させていただきながらこの審議会に参加させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

芳野委員：皆さま、こんにちは。九州経済産業局で産業部長をいたしております芳野と申します。仕事のほうは主に中小企業・小規模事業者の皆さん方のご支援をさせていただくということを仕事にいたしております、例えば、商店街の皆さん方のまちづくりですとか、ものづくり企業さんのご支援ですとか、あるいは農商工連携ということで農業者の方々と商工業者の方々と連携して新たな商品をおつくりになるとか、販路を開拓されるとか、あるいは地域資源を活用した新たな商品開発といったものを支援させていただいているところです。

今回のこの審議会で微力ではございますが、皆さま方のご議論に参加させていただきながら一緒にお話をさせていただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

林委員：林真実と申します。こんにちは。はじめましての方もいらっしゃいますが、私はほんとに縁もゆかりもない基山町に越してきて20年になります。ここで子育てをやってまいりました。普段は消費生活アドバイザー、あるいは環境カウンセラーとして活動しておりますけれども、町内では親子のためのコンサート、キャンドルナイトといったところで低炭素まちづくりというところで地域の方々と活動させていただいております。今回、こういう場に参加させていただきましてありがとうございます。頑張りますのでよろしく願いいたします。

森田委員：はじめまして、九州大学の森田と申します。私の名は森田昌嗣（よしつぐ）と呼ぶんですけれども読めない人は読めなくて、「まさつぐ」と読ぶのが普通なのですが、親が勝手にそういう読み方をしまして、「よしつぐ」と読んでください。

私は九州大学では公共のデザインを専門にしておりますまちづくりをはじめとした、どちらかというとハード整備のところを中心に今までやってきております。最近福岡市では協働事業の企業、NPO、地域と行政が手を結んでいろんな取り組みを行うという。協働事業、条例の作成という推進というの。ソフト面でのまちづくりについても職域をしております。デザインの線では最近博多駅のプロジェクトを担当させていただきました。あそこは博多まちづくり協議会の方たちと、地元の人たちと共に非常に歩く人にとって使いやすいということで取り組んできました。公共のデザインというのはああいうアウトプットをするというような仕事をやってきておりました。

基山は私、知り合い、友人がおりまして友人からもよく話を聞いておりました。いつもはやはり通過してしまうところなのですが、ポスターにある大興善寺さんとかいうところはよく遊びに行かせていただきました。とても気持ちのいい町だと思っております。少しでもお役に立てればと思っておりますのでよろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございました。それでは続きまして会長および副会長の選任になりますけれども、これは互選となっておりますけれども、いかが取りはからいますでしょうか。

委員：事務局一任でお願いします。

事務局：今、事務局一任という声が上がりましたけれどもよろしいでしょうか。

委員：はい。

事務局：それでは会長のほうは私どものほうでお願いをしております九州大学の森田教授のほうにお願いします。それから副会長につきましては一般公募の林さんのほうにお願いしておりますので、よろしく願いいたします。それでは、会長、副会長のほうから一言、ごあいさつをお願いいたします。

4 会長・副会長あいさつ

森田会長：公共のデザインの話をもう少しさせていただきます。公共のデザインで一番重要なのは環境をいかにつくるか、環境をいかに創造するかということがとても重要です。当然、人と人の関係が中核にあるのですけれども、人と人の関係を築くためにはそこにもものがあって、場所があって。そういった場所ともとの人が非常に有機的につながっていく。それをどう関係付けるか。おそらく行政の仕組みも、それから先ほど申しましたような建物であるとか、ハードの整備もそれをつなぐための1つの装置と考えるといかに環境をつくるための措置を立てるかということが審議会の主軸になるかなと思います。皆さま方のいろんなご意見、ますますの基山のまちづくりに向けて私自身議事を担当させていただきますので今後ともよろしく願いいたします。

林副会長：林でございます。大任を仰せつかりまして緊張しております。私は消費生活アドバイザーや環境カウンセラーとして県の環境審議会ですとか、よその町のまちづくりに、省エネとか低炭素というところにかかわらせていただけてきました。いつもは生活者の立場から企業や行政に物を申しあげているのですけれども、そういう生活者の立場から森田先生が今おっしゃったような装置づくり、仕組みづくりというところでお手伝いさせていただければと思っております。勉強させていただきますのでどうぞ皆さま、ご指導よろしく願いいたします。

5 諮問

事務局：それでは会長、副会長が決まりましたので町長のほうから会長のほうへ、総合計画の諮問書を手渡していただきますのでよろしくお願いいたします。

町長より諮問

事務局：それでは町長のほうは所用がありますのでここで退席をさせていただきます。

町長：諮問をさせていただきましたので私はこれで失礼させていただきます。どうかよろしく願いいたします。

事務局：それではこれからは会長のほうへ議事をお願いいたします。

6 議事

(1) 第5次基山総合計画策定方針・スケジュールについて

森田会長：それでは議事を進めたいと思います。まずお手元に町長からいただきました諮問を受理していただければと思います。では議事に入ります前に基山町の審議会等の会議の公開に関する規定に基づき、この会を公開するか否かを皆さんにお諮りするということになっております。会は原則公開ということで皆さまよろしいでしょうか。

委員：意義なし。

森田会長：ありがとうございます。それでは議事に入りたいと思います。レジユメに基づきまして進めていきたいと思います。

それでは(1)第5次基山町総合計画策定方針およびスケジュールについて、事務局より説明をお願いいたします。

事務局より「第5次基山町総合計画策定方針・スケジュール」について説明。

森田会長：今、ご説明いただきました策定方針・スケジュールについてご質問ございませんでしょうか。

原(憲)委員：パブリックコメント自体は職員の中でパブリックコメントをして意見が出なかったと言われたんですか。

事務局：お答えします。その分につきましては基山町のホームページ、および情報公開コーナーのほうで行っております。

原(憲)委員：これは市場には出ていないのですか。

事務局：その分の資料について準備させてもらっておりません。ちなみに実施した期間としましては、4月にホームページ等に掲載させていただきまして平成25年5月8日～5月21日まで意見の募集のほうを取り行っております。以上です。

時委員：議事の進行について広大な総合計画ですのでブロック別にきちんと分けて日にちを設定するという考えはないのですか。例えば、企業とか、商工会とか、老人会、そういう事案がそれぞれ違うのです。総合的に審議するというのは分からない。老人福祉は老人福祉の事項できちんと委員さんの意見を聞きながらやっていかないとそのたびでやるとごちゃごちゃになっていく。

事務局：スケジュールですけれども、皆さま方の総合計画審議会の議論は全部できようを含めて5回予定しております。基山町の総合計画審議会条例というのがございまして、その中で時委員がおっしゃいましたように部会を設けてそれぞれの分野ごとに審議員さんにその部会ということで審議をしていただくやり方もございます。会の進め方につきましては今後、事務局のほうでも考えていきたいと思っておりますけれども、当面は、本日、進捗状況を報告させていただきまして、現在、基本構想の原案というところまで出来あがっておりますので、そちらの報告をさせていただきまして次回の会議の折りにまた皆さまから意見をいただきまして、それを集約し、いったん基本構想というものを固めた上でもっと細かい計画の基本計画というものをつくっていかうと考えております。今後の進め方につきましてはまた事務局のほうで検討してまいりますのでよろしくお願いいたします。

事務局：説明をさせていただきます。総合計画というのはまず基本構想、全体の考え方の部分がありまして、これは基本構想といいます。その下に基本計画といって福祉の分野とか、安心安全、いろんな分野の議論をすることになっております。基本計画のいろんな分野の計画をつくる時には住民の皆さんとかいろんな団体の方と議論しながらつくっていききたいと思っております。そういうものができあがって、そういうところである程度話が出来あがって来たものを総合計画の審議会で議論をしていただくということになります。

今のところ総合計画の基本構想、全体的な考え方の部分が今出来あがっておりますので今後それを議論していただきまして、それが確定した段階で基本構想の個別の分野ごとに住民さんと議論をして、それがまとまったらまたこちらのほうで議論をしていただくことになると思います。今回は基本構想の部分を今日は説明をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

益田委員：各調査表関係きていますよね、これは各区のほうで提案されて持ちあがってその計画についてアンケートを出してくれということがこの中での一つのあれになっているのですか。各担当職員の皆さんが行って、それを各組合長に配布して、それを4月の中旬ぐらいに回収してそこから集約をする。それについては強制をしないというふうなかたちで出されたと思っておりますけれども、そういうかたちでいいのですか。

事務局：大丈夫です。今おっしゃいましたのは地域別座談会というのを3月から4、5、6月にかけて実施をしました。これは各区の意見を、地域の課題や目標をより行政に反映をさせるために実施をしているものです。今、益田委員がおっしゃったようなかたちで実施をしていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

森田会長：パブリックコメントに関しましては今年度の5月、1回やっております、この審議会で協議した内容を踏まえては平成26年度は11月と12月にもう一度パブリックコメントを聞きとるということになっております。

あと、先ほど事務局からありましたように部会の扱いについては協議の仕方によって、例えば、私、福岡市の総合計画を担当していたのですが、福岡市の総合計画は大きなテーマの2つに委員さんを分けて、個別協議をして総合でまたやるというようなやり方もやられました。あまりにも多くて議題がたくさんあって全部を入れるのは非常に難しい。ここに関しては先ほど事務局からありましたように、基本構想の協議のときに、計画の段階で部会をつくるのか、審議会1つでやっていくのかというのを決めていけばいいかと思います。

他にスケジュールと策定方針につきましても意見はありませんでしょうか。また次の議事に移って説明をいただいた後に振り返って質問していただいてもいいかと思います。続けて(2)基礎調査内容報告について、再度事務局から説明をお願いしたいと思います。

(2) 基礎調査内容報告について

事務局より「基礎調査内容報告」について説明。

森田会長：基礎調査資料報告でございますが何かご質問等ございますか。

江渕委員：第5次基山町総合計画策定に関する基礎調査の21ページに人口の動向を調べておられるのですが、これは平成22年度までになってはいますがその後の新しいデータというのは必要ないのでしょうか。

事務局：こちらに関しては国勢調査の最新のもので表示をさせていただいています。その後のものはもちろんありますけれども、今度の国勢調査は平成27年になりますので、この計画は平成28年度からになりますので現時点で一番新しい国のデータということで平成22年という表記になっております。

江渕委員：もう1つですが、23ページに「⑤人口の自然動態」と書いてありますが、平成17年度の出生数と死亡数。出生数が大きくなっているのですが、死亡数のほうが多いのではないかと思うのです。出生数が130になってますが、たぶん113ぐらいではなかったかと思います。

事務局：確認をしてお答えいたします。

森田会長：大半がデータですので今すぐ見て質問は難しいかもしれませんが何かありますでしょうか。

林副会長：ご説明ありがとうございます。質問させていただきたいのは町民が評価している点などはよく分かったのですが、課題視している点とか、あるいは町の方が何が一番課題だというふうに考えてらっしゃるかというところをご説明いただければと思います。

事務局：この後の基本構想の原案の中でも少しお話ししようと思っておりましたが、一番は町民の方は今住んである方で8割ぐらいの方が「できれば住み続けたい」、「基山町はいいところだ」という意見だったのですが、一番私を感じましたのは町外から、主に福岡市、佐賀市、久留米市など、町外から見た視点で基山町がどう見られているのかというもので感じましたのは、基山町というものが他に売り込みが少ないというか、知られていないというのが一番でした。

皆さん、基山といいますと、基山パーキングはまず一番目出てきます。二番目に丸幸ラーメンが出ます。そのくらいは皆さん知っているのですが、「基山町には何があるの?」と言ったときに、私たちは今ポスターで貼っています大興善寺であったり、基山（きざん）の草スキーであったりというのは子どものころから知っているのももちろん分かっているつもりでいるのですけれども、基山以外の方がどれだけ基山のことを知っているかというところまで知られていない。

その結果が町外のインターネット調査で分かりました二番目に意見が多かった「分からない」ということ。分からないということはやはり基山町のことを知られていない。ということであれば、いろんな素晴らしい施策が今、基山町はあります。近隣の市町には負けない素晴らしい施策があるのですが興味を持ってもらっていないというのが一番の課題にありましたのでまずはそこを解決する。いろんな施策があってもそれを知っていただけないなら意味がないというところでインターネット調査、各社アンケートでもまずは基山町をブランディング、価値を高めることで他の施策にもそういう効果が得られるのではないかというふうに感じております。一番印象に残ったのはまさに「分からない」というところで、私たちが今から一からまた基山を外に向かって発信していかないといけないというのがインターネットを含めたアンケート調査で分かりました。

森田会長：では次の（3）基本構想（原案）について、今のご質問に対する回答を含めて少し整理させていただければと思います。次に進めていきたいと思えます。では基本構想についてご説明をお願いします。

（3）基本構想（原案）について

事務局より「基本構想（原案）」について説明。

森田会長：膨大なといいますか、かなりの量があります。主には最初にご説明いただいた新基山構想ということ。その前段が最後に説明された総合計画の考え方ということで示されました。具体的な構想案というふうになっております。ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

確認なのですが基本構想の議論といいますか。これを今日議論ですか。

事務局：今日は初回ですのでこういったかたちで今つくり上げましたということでご提案をさせていただきましたので、2回目が一応5月ぐらいに予定をさせていただいていますけれども、また皆さんと調整した上で2回目に今日の基礎調査の報告とこの原案を持ちかえっていただいて意見を持ってきていただければと思います。

今日は率直な感想をお聞かせいただければと。

森田会長：構想を聞いた感想とコメントですね。

天野委員：初回ですので素朴な質問も許されるかなと思ひまして、非常に恐縮ですけれども。シティプロモーションという言葉が何度も出てきたと思うのですが、この定義付けというのはどういったものでしょうか。僕もなんとなく分かったつもりでいるのですがどういった理解で腑に落として今後、2回目以降に進んでいけばいいかなと思ひまして。先ほど、町を売り込むという話もありましたけれども。私もそれに近いのかなと思ひていたのですけれども、いかがでしょうか。

森田会長：少しカタカナの言葉がたくさんありますがこちらの言葉の意味、定義を。

事務局：シティプロモーションは造語ではあるのですが、いわゆる町を売り込むという、そのものなのですけれども。いろんなものに当てはまります。何も何かをつくってそれを売り込むという活動だけではなく、いろんなものを資源として捉えて外に展開していくということがシティプロモーションにあります。実はこれといった定義というのは、皆さんもご存じかとは思ひのですが、ございません。私は東海大の河井教授という方が「シティプロモーション」という本を出されていて習得したのですけれども。とにかくブランド、なんでもいいのですが基山町というブランド。ブランド化を図ってそれを外に売り出すことだということを言われておりました。いわゆる足元に光を当てて地域資源を見直すことで、実は何か新しいものをつくるのではなくて、今あるものを外にどんどん売りだしていくのだというイメージを持っていただければと思います。

用語についてはご指摘ございました。議会からも横文字が多いということでご指摘がありましたので用語集は考えております。できればそのページの下のほうにでも横文字については脚注を入れるように検討しており

ますのでよろしくお願いたします。

中島委員：4点ほどあります。町民アンケートなどを参考になさってこれをつくられたと思うのですが、基山のカラーが黄色ということで町民アンケートでは緑がダントツに多かったのですが、黄色を押すという理由というのはここに書かれていたとおりのことでしょうか。

事務局：いわゆる緑はおっしゃいますように、緑というのが一番多くて次が黄色でした。緑はどこの町も緑なのです。どこの町もといいますか、いわゆる一般的に田舎ではないかといわれるような小さな町はアンケート調査すると緑が多い。二番目に多かったのが黄色。今回は目を引く色が総合計画、プロモーションに必要ではないかということで、いろんなご指摘が「緑が一番多かったのになぜ黄色なのか」などは再三いただきました。

ここに書いておりますが、黄色というのが有彩色の中で一番明るい色でなんとなく目につく色が黄色であって、町のシンボルの「基肆城」という「き」というのが入っていますし、いろんな語呂合わせで黄色が一番馴染むのではないかということで今回、ブランドカラーとして設定をさせていただきました。

インターネット調査で2番でした。町外の方が基山町のイメージを何色かとしたときに二番目が黄色でした。

中島委員：2点目なのですが、基山町規模で人口増加をしている他の地域をどこか調べておられますでしょうか。テレビで見たことがあるのですが、宮崎県の山奥のほんとに小さい町が今、爆発的に人口が増加しているという地域がございまして、そこがなぜ増加しているかという、24時間開けている図書館をつくった。24時間開いていると子育て中のお母さんたちがそこに来て悩みを話す場になったり、そういうことが口コミで広がって人口増加をしているというケースがございました。そのような基山町規模の町で人口増加をしているケースがもし他にありましたら次回までぐらいに調べておいていただけたらと思います。

それから、町外の方が基山町をイメージしたときに二位が分からないということがダントツに多く、それが不満だということだったのですが、実際に私が「太良町は？」と聞かれると「分からない」としか答えようがないです。やはり太良町に行くことになったときに太良町のホームページなどを見て、ここはこういう歴史があってこういう観光資源があるのだなということとそこで認識するわけであって、認識するためにもいつもそこに住んでいる人たちが発信できる情報を蓄積しておかないといけないのかなと思います。

ということは、スーパーマーケットの従業員が自分の務めているマーケットの品物を知っていて、そこで買い物をして帰るとするのがそのスーパーマ

一ケツトにとっては大成功ということ。町にとっても、町民のひとりひとりがこの町に何がいいところがあるのか、何が観光資源があるのかということをも自分たちが自覚しない限り発信できないわけです。そこが一番大事なかなと思っております。

それから、町民の定義なのですが、ここに書かれている町民というのはここに定住している人のことだけでしょうか。それとも例えば東明館など通ってきている人たちも町民に入ると考えてらっしゃいますか。

事務局：1点目の同じような自治体ですけれども、他にもあると思いますけれども調べさせていただきます。この近くでトリアス久山のある久山町が人口が9,000人ぐらい、1万人弱ぐらいだったと思います。今、ずっと人口が増えています。というのも、はっきりと自然と開発区域を制限してきてまちづくりをやってきたところだと思うのです。やはり都心に近いということで需要が高いので少しずつ住むところを増やしていった結果、だんだん人口が増えています。そういったかたちで基山町も需要はものすごく高い。住宅開発、宅地開発してもすぐに売れてしまう。アパート、マンションも空き家が比較的少ないのです。そういったものもありまして需要が高いけれども実をいいますと住むところがない。宅地開発、それに尽きるわけではないのですが、需要に対して供給が追いついてないというのが現状かなというふうに私は認識しております。

今、市街化区域の中に田んぼ、畑というのが多くありまして、約30万平米ぐらいあるのですが、その中から工業地域、長野地域とかを除くと約20万平米ぐらいございます。県の都市計画のほうでそういったいわゆる線引きの見直しをするのですが、市街化区域内の残存農地があるうちはなかなか、例えば、役場の前のあおやぎ歯科のところの田んぼとか、簡単には宅地にはできないのです。調整区域ですので。そういったものもありまして、実は市街化区域といわれる地域の中にはあまり残地がないというのが現状であります。まさに久山町が少しずつ広げていって少しずつ人口が増えている。爆発的には増えてないのですが、そういったものを見習いつつ施策をつくっていきたいと考えております。

そして2番目の、自分たちが基山の何がいいのかを認識するというのはまさにそうだと思います。今回は外向けのシティプロモーションを重点課題にしていますが、もちろん町民の方々が住んでいてよかったと誇りに思ってもらえるような施策も並行してつくっていかうと考えておりますので基本計画の中では基山に住む、基山町ということをも、よく「福岡県になりたい」とか言われる基山町の方いらっしゃいます。合併の話になると「福岡県としたい」とか。そういうことを冗談じゃなく、基山町に住んでいるのだということをも誇りに思ってもらえるような。間違ったブランドではなくて、ほんとの基山町というのがいいところなのだということを助成していきたいと考えております。

3つ目が人口はもちろん住民票がある人口なのですが、交流人口、まちづくり人口というのは基山町のまちづくり条例でうたっております町民というのは基山町に勤務されている方、通勤されている方、すべてを町民と定義しております。

原（憲）委員：この計画の案で1つ思ったのが人口の部分で交流人口。違和感があったのが、高速の利用者を交流人口に入れたということが非常に違和感がありました。というのが、誰が関わっているのかなという気がしたらそこに勤めている方、あるいはごみを回収する方、それぐらいしか私には思い浮かばなかったです。私がそこで高速を利用している、サービスエリアを利用している方とどう交流を図ればいいのかなど。では飛行機に乗っている人も、基山の上を通れば交流人口に入るのか。そういう感覚のずれがありました。そこが1点です。その根拠がどれぐらいの数が452万人のうち高速バスを利用している方は基山の人も入るからいいのですが、パーキング等とかいうなら分からないなというところが。高速バス利用者で降りる、中継に使うという数だけであれば若干はかかわるのかなというのが1点。そこが明確に分からなかったというところです。

2つ目がやはりどこの自治体も同じような考えになるのだと思いますけれども。基山町の中でも最低でも目標として現状を維持するような人口を達成しようというような目標が掲げられていますが本当に人口が減って行くことが悪なのか、悪いことなのか。そこの総括は社会的展望の中で少し触れられている部分はあると思うのですが、ほんとに基山町が人口を増やしていかなければいけないというふうに町民が思っているのか、自分自身も思っているのかということと、しっかりこの場で議論をした中で、その中での計画。計画を立てたからには実施計画へと移っていかなければいけないという部分では本当に増加を求めていくことがいいことなのか、減少することを許しているのは悪いことなのかという議論が私の中では少し整理ができないというところです。答えはいりません。

最後ですが、方針の中で平成25年度でしたか、義務化されていた総合計画の策定がなくなりました。これはまちづくり条例の中で決めていただいている問題だから自分たちでつくっていきましょうという感じなのですが。10年前も議論があったと思うのですがけれども、合併問題も含めて果たして10年というスパンで考えることが正解なのかというのが非常に私はその当ても疑問に思っていました。自由にできるなら10年たったら我が家の人口は半減したわけです。そういう意味からすると長すぎるのではないかな。そういうサイクルの中で実質計画も何年サイクルで実施を見直したりしているのでそういうことに行政のスタイルとしてなりがちですけれども。本当に10年後の基山の姿を今考える材料がここに整っているのかを考えると皆さんの中で議論する余地があるのではないかということをお願いして終わりたいと思います。

江渕委員：これを見まして私が思うのは、1つは先ほど天野さんが言われたようにシティプロモーションという言葉がありまして個人的にはシティプロモーションと総合計画というのとは違うのではないかと考えております。構想ではシティプロモーションをつくるけれども、実際の中身は総合計画となってくるとそのつながりが少し疑問に思っています。それが1点です。

それと、「愛が大きい基山」というところがあるのですが、なかなかイメージが浮かばない。例えばこの5ページに基山町「愛が大きいですよ」という、基山（きざん）は分かりますけれども、「基山町は人が大きな誇りですよ」とか、「基山町は愛が大きな…」、こういうことの聖地ですよというのが出てきたときに町民の方がこれをほんとに理解することができるのかどうか。先ほど「愛が大きい」と大興善寺のことを言われたと思いますけれども、そういうものが総合計画の中にはたぶん入ってこないのではないかなと思うのです。表面だけしか。そうするとなかなかその辺のイメージがわいてこないかなと。

4ページに文章が書いてあるのです。これからの基山町ということで、これを読んでいくと、基山町という言葉や、言い方は悪いけれども鳥栖市に変えてもこの文章は成り立つと思います。基山町の特徴というものがこの中にはあまりないのかなとと思っています。そして、言われたようにカタカナが多いので果たしてそれが皆さんが理解することができるのかなというイメージがあります。基山でサプライズプロジェクトとか、ブランディングプロジェクトとかあります。果たしてこういう言葉が皆さんがきちんと理解することができるのかなというのが今、説明をうかがって感じた点です。以上です。

事務局：いただきました意見、審議会の中で出た意見につきましてはプロジェクトチーム、それから幹事会のほうで十分審議をして再度提案をさせていただきたいと思っております。ご指摘、やはり私たちがつくるものですけれども、住民さんが手に取ったときに理解していただけるものというのを心がけなければいけないと思っておりますので、また議論を重ねて提案をさせていただきたいと思っております。

時委員：選挙のスローガンのように形容詞が多くて本当に住民と密着した改革ができるのか、あるいは将来像をそういうスタンスで展開するのにどうも形容詞が多くて。さっきも言われましたけど、基山町外の人が聞いたらまったく理解できないというようなことで中身のない形容詞が多すぎるのです。実際に実施するスローガンは分かるけれど、例えば、役場の職員が退職しても老人会には1人も入らない。役場にいるときは町の役に立っているから役場の人。1回退職したらぜんぜん知らん顔でそれも入らない。基山町、誰も入りません。

基山は私は都度県に毎月いきますが、基山が最低なのです。ブロックはたった6つしかありません。会員は500人。みんなは1,000人以上。そして、視察にいきます、鹿島町、江北町とか行きます。そうすると予算処置が老人福祉に対してまったく違うのです。なんにも基山町の老人会はできません。来年度は会計いわく財源がないからできません。事業カットしなければいけない。例えば、具体的に基山1人58円。吉野ヶ里は600円、江北町は700円、唐津は1人1,000円、行政から手当てがくる。老人福祉は祝い金は切り捨てた。それはいいのです。老人会は基山の役に立つように河川の草取りとか、児童公園の草取りとかしています。なにもグランドゴルフばかりしているわけではありません。基山の弥生が丘。そこになぜ基山で回っているバスが行かないのか。あそこまで延ばしてもらえたら助かるという声が老人会のほうにあります。

うきはに研修旅行にボランティア協議会で行ったのです。そしたら13年前から行政は「トシロズ」とうきはの世帯を回っている。社会福祉協議会がちゃんと医大とか下の病院とか、さくら病院とかにちゃんと社会福祉会が回っている。弱い人に手をのべるような先見性を持った事案をしないと、ボランティアの委員さんの中には小郡はそこまでしてくれると小郡に移転する人もいます。委員さんはいません、ボランティアはいる。やはり1つは職員が勉強してください。基山のことをずっと勉強して、今、審議会がしようとしているけれども。上峰とか吉野ヶ里とか、老人会にどれだけのことをしているか。また、職員も老人会が研修へ行くときには、あるいはボランティア協議会の関係で行くときには同行して、何か1つぐらいは話を聞くぐらいだけではなくて持ち帰って実践するような職員になってほしい。

老人会の皆さんに金は削ったわ、あとは知らんぷりする。老人会の年よりそのものが存続を問われている。そのことがあなたたちも初めて聞かれますが、10年先はそういう人のために、あなたたちも定年退職になるのだから施策を老人会のほうにもう少し目を向けてもらいたいと思います。おいおいと詰めていって資料を元に、県の資料ありますからぜひ勉強して将来性の面に向かって予見性を持ってやっていただきたい。

あなたが言う通りでそのことを忘れずに言ったことを実行してもらいたいと思います。以上。

森田会長：今、いろんなご意見いただいている中で私が思うのは、今回の構想はかなりイメージ先行で提案されているのはすごく斬新で面白いのですが、いきなりここに飛んでしまうと大元の基本構想そのものの部分が分かりにくくなっていると思います。ですから、こういったイメージを掲げながらも基本的には第4次総合計画で示された構想内容のどの部分に齟齬（そご）があるとか、課題があるとか、それに組みかえていくべきなのかという整理が必要だろうと思います。

それから2つ目の議題で説明いただいた基礎資料に基づいて、基礎資料から得られた課題、もしくはメリットとデメリットと申しますか、プラスとマイナスがこの基山町の8つの強みのどの部分にどう反映しているのかという基礎資料との整合性。その辺も資料的には付けていただいてこういう構想の脈絡をつくるのだという組み立てはやっていただいたほうがいいのではないかなと思います。どうしてもかなり、ここまでイメージを持っていらっしゃるところ、総合計画の実施計画に近い段階にかなり入っていますのでそこを一つ立ち戻って整理したらどうかと思います。大きなテーマはなんなのかという、これから10年の構想は何かというのは少し感じました。

他に何かありますか。

芳野委員：いろいろとご説明いただきありがとうございます。大体ということで感じたことだけ申し上げたいと思います。私いつも高速バスで通っていて、基山町にお邪魔するのはこれでまだ3回目、4回目というぐらいなのです。ただ、今回こういうかたちで参加させていただくに際して、こちらの資料とか事前にいくつか話していただいたりということで勉強させていただいたのですが、資源としては地域が持つ観光資源であったり、農林漁業資源であったり、いろんな資源があると思います。そういった資源としてすごくこの町の中であって、お寺も含めていろんな資源があるなという感じがしております。

先ほどご説明があったとおり、それをいかに、例えば福岡市をはじめ、地域外に売り込んでいくか。結果、交流人口を増やすというかたちで取り組まれるというのがこの中にこれから基本構想として入っていくと思うのです。おそらくそれは先ほど会長もおっしゃったように工業であったり、商業の面であったり、あるいはまちづくりの面であったり、いろんなところに関連してくると思うのです。ひとつ、やはりこれからは自分も勉強してお手伝いしていけたらいいなと思っているのですが、外部から交流人口として入ったときに来られる方の満足度を最大にするというのももちろん重要だと思うのですが、そういったところで地域住民の方々に裨益（ひえき）するような取り組み、仕組みづくりをつくっておかないとなかなか交流人口として増やしてきたときに基山町の豊かさとか、あるいは地域住民、農業者の方、商工業者の方、あるいは住民の皆さん方に裨益できるような、効果がうまく伝わるような仕組みづくりというのをこれから考えていくのはひとつ重要なことという気がいたしております。

またもう一方では住んでおられる住民の方々の満足度を最大限にするということなので、ここは交流のシティプロモーションとはまた別の切り口でしっかり用意していく必要があるのかなという気もしております。具体的にそういった仕組みづくりみたいなところをこれから審議会でも議論できればいいかなというふうに感じました。

落合委員：いろいろ感じたのですが、総合計画のつくり方の基本にかかわるところで2つだけ意見を言わせていただきたいのですが、1つは原さんが退場される前にご意見言われたのですが、10年計画を今回つくられるわけですけれども。10年間寿命がもつのか、計画が。おそらく2～3年経つと社会の変化だったり、状況の変化で齟齬（そご）が出てくる。10年間計画として成り立つような仕組みというのをビルトインしないと10年、どんなに素晴らしい計画をこの時点で作ってももたないかなという気がします。計画は4年計画にしているということ、もう1つ、それだけでなく状況の変化に対応できるように進化する総合計画という言い方で、その4年の中でも状況が変わればどんどん変えていきますよというのをつくった段階から宣言していました。実際どんどん変えてきています。それは計画的に物事を進めるといふ話と相反するところもあるのですが、10年計画であればなおのことそういうものをどこかにビルトインする必要があるかなというのが1点。

もう1つは人口問題。これも意見がいっぱい出ていますけれども。今、県も次の総合計画の準備に入っていて、その中で最大の問題が非常に基本にかかわる問題が人口減少問題にどう対応していくのかということなのです。今、いろいろ研究をしています。基山町の場合、どちらかという人口が増えているのかなと思っておりましたが、これを見ると社人研の推計でも減る。この中でこういう努力目標を設定するということがどこまで現実的なのかというのをもう少ししっかり客観的に捉える必要があるのではないかなと思います。人口が減っているだけではなくて人口構造が子どもを産み育てられる年代層の割合が相当急激に減るのです。高齢者が増えるので全体の人口の減り方としては緩やかなのだけれども、なかなか人口を増やせる構造になってないというのがあります。そういう中でこの数字というのはものすごくチャレンジングに見えるのです。

確かにポテンシャルが高いし、先ほど住宅需要もあるというようなことをおっしゃっていたのですが、この目標を達成するのはものすごい無理をしないとイケないのではないのかなとも思えるのですが、どういふことを打っていけばこれが可能なのかということをお問われると思うのでそういうところを意識する必要があるのかなと思いました。

時委員：昔、地区懇談会があったとき町長さんと話したのは、私が言ったのです。「子どもは1人産んだら米3俵か4俵をやらなければ」と。そうしたら結婚、出産したら、20～30万あげなさいと。あれは去年の夏でしたか。そう言ったのです。人を減らす、減る。ぼやいてばかりいても知恵を出さなければ駄目ではないですかと。少しはアメをやる、食わせなきゃいけないのですよと言いました。アメはあげなさいと。基山に住むならこういう良い事があると。まさにひとつの知恵でしょ。それがいいか悪いかは別としまして。

取り上げるのは固定資産税から全部を取り上げるばかりではなくて、ある程度これぐらいの子どもを産んだら、3人産んだがら米100俵ぐらいやるというぐらい。50万円ぐらいやるというぐらいの。4人目からこのくらいなるくらいにしなければと言って、町長さんと話したのです。当日は返答も何もないし、聞きっぱなし。ひとつの研修旅行とまったく同じ。研修はしたけれど持ち帰ってきてひとつぐらいは我が町で実行しようと声をあげるけれども、なかなかそれができないのです。

本当は費用をかけて研修にいくなら、持ち帰って、この町を本当に愛するならば、私はここの道産子ですから。そういうことでひとつぐらいはとりあえずやってみて、基山でやってみて、5年後ぐらいのスタンスで悪かったら取りやめればいい。老人会の老人の人の見舞金もまったく、70歳からぱったりとやめたでしょ。それはもちろん時代の流れでそれでいいのです。ずっと続けていたが、そういうことも時代の流れとともに取っていった。足していくものと取り上げるものとしていかないとだらだら。「時さん、会長、あんまり基山にいろいろ言いなさんな」と基山の道産子は言います。そうですけれども、今のままだったら何も変わらない。今までどおり役場がぬくぬくと育っているだけ。よその人もまったく知らない、だから老人会はもう。

老人会のことばかり言いますが、県の会長会に行ったら肩身の狭い思い。たった500人。1,000人いかないのは基山と玄海町だけ。あとは全部1,000人から3,000人とか。やはり思い切った施策をしないとみんなありふれた考えでは、なかなか人は増えないだろうと思います。これは参考のために言っただけです。

田口委員：私も率直な感想だけ。第4次するときも散々言わせていただきましたけれども、大体今の構想を一通り聞く中で確かに夢あふれる、こうあるべきなのだという姿が描かれています。それは非常にいいことなのですけれども。現実を見ますと、今、時さんが言われたようにこれからおそろしい高齢化社会が襲ってくる。そういうときの対応策をどうするかということもひとつの大きな命題なのです。夢は夢として確かに必要なのですけれども、これから10年間の間に襲ってくる。それは佐賀県も日本も、全体がそうなのでしょうけれども。どうやって来るべき高齢化社会を支えていくのか。それを基山町は若い人たちがどんどん流出している中で若い人を取り込むために住宅施策をやるということでしょうけれども。

実際にはもう少し掘り下げないといけないと思います。若い人たちが、今でも来ている人たちが基山に住んだけれども出ていっている人もいます。それがなぜ出ていっているのかというのをたぶんご存じだと思うのですけれども。いろんな部分で子どもを持つ家庭が福岡県から入ってきて、不満を持ってまた出ていく人たちが増え始めている。あるいは不満がある。それは病院、子どもの治療費だとか税務だとか、税制上だとか、公共料金だとか、いろいろあると思いますけれども。そういったことも含めてこれからの目の前

に直面する問題を少し盛り込んでおかないと夢だけでは食べていけない。われわれも商売人ですから事業計画をつくる上では夢を大きく膨らませて風呂敷は多くしないとイケないわけです。

先日うちの記事が日本経済新聞に出ましたけれども。あれも相当大きく風呂敷を掲げてああいう記事になったわけですけれども。やはりそれは夢としてあげておかないと現実になりませんから、それはそれでいいのですが、大事なことはそういった現実を踏まえた計画も十分に練り込んでおかなければいけないし、われわれも商工会として商工業を代表するものとして駅前シャッターが閉まった、シャッター街になってしまったような商店街、火の消えたような商店街、こういったものも夜の街は少し明るくなっているものの中での買い物人口がほとんど増えない。挙句の果てにはトライアルさんも撤退する。あの安売りのトライアルが撤退した後に誰がきますかという話になっているわけです。誰が来たら成功するのか、何が来たら成功するのだろうか。そういった状況が今日の前にあるのです。

私、前もお話したと思うのですが、今、原さんも同じことを言ったのですが、人口が減ることが本当に悪いことなのかということです。それは十分に考えておかないとイケないと私も思います。第4次のときも人口増ありきの計画ではなくて、人口は減るということを想定した上で計画を練ってくださいと何度も私は申し上げました。結果的には2万人ぐらいを目指しますということになったと思いますけれども。現実それは達成できないわけです。これからも1万8000人か2万人を目指すとしても、それが達成可能なのかというのは分かりませんが、しかしやはりプラス面ばかりではなくてマイナス面もしっかり盛り込んでほしいのです、私としては。それを踏まえた上で駅前の商店街の再開発なり、役場の跡地もありますし、ああいった遊休地をどう活用していくか。もしくはほんとに昔中心街なんかで、長崎街道を中心とする基山を通っていたメインストリートがまったく閑古鳥で火が消えたようになっていますので、そういう資源。確かに基山（きざん）、基肆（きい）城だとか素晴らしい資源もありますし、パーキングを利用したスマートインターの構想もいずれ実現可能な領域に入ってくるでしょうから、そういったものを踏まえて私自身もパーキングにくる人口、人があそこにカウントされているということで原さんは言われましたけれども。私はそのカウントを基山に降ろす方法を考えなければいけないと思っているのです。素通りしているから。それはカウント上は確かにおかしな数字かもしれませんが、私はそれだけの人間が、450万人来ているのであれば、その人たちが基山に降りられるようにしたい。そして、その人たちが基山にお金を落とせるようにしたい。そのためにスマートインターがもし実現すればの話ですが、私自身が強く思っていることはあのスマートインターの下の農地を開拓して町の駅、道の駅をつくりたい。そしてパーキングから自由に出入りできるような構想をしたい。それが可能であれば、あそこにひょっとしたらホテルを建設できるかもしれない。そうすると大きな中心地である鳥栖インタ

一を巻き込んだ、この久留米・鳥栖の地域で、九州のへそといわれるこの地域に非常に物流の拠点になって、人の拠点になるような地域ができるのではないか。近隣の筑紫野あたりにも含められる非常に巨大なベッドタウンがあるわけで。そういったところの人たちも含めて。再開発でこの地域の人の流入を増やす方法は考えればいくらでも出てくるのです。ですから、それは私も今後将来、今度、副町長として松田課長も九経省から来ていただきます。彼のプレーン、人脈をうまく活用すればネクスコあたりも動かせるのではないかなというふうに思ったりもしています。そういうことでいろんなことを私も提案はしていきたいと思えます。大事なことは今直面している問題点をしっかりと踏まえた上でということも十分練ってほしいなということをお願いさせていただきます。

林副会長：ありがとうございます。2点ございます。まず先ほど私が課題視していることを申し上げたときに町外の方のイメージが分からないということだけおっしゃったのですけれども。やはり町民が何を不満に思っているのかとかいう認識をもう少し盛り込んで、正しい現状認識の上につくらないとイメージが先行しているなというふうに思いました。具体的には町民アンケート調査で、例えば、自由記述でどんなことが不満としてあげられたのか、あるいはアイデアということも先ほどいろいろ盛り込まれておりましたが、具体的に町民から「ここはこうしたほうがいい」とか、「こうしてほしい」というアイデアも出ていると思うのです。そういう自由記述がどのようなものがあつたのかということも知りたいなと思いました。

2点目なのですけれども、先ほど、一番最初に亀山さんがパワーポイントで。例えば、基山町の交通環境の良さとか。あれは交通環境がよいというような認識というふうに私は思ったのですが、私は個人的に例えば福岡市とか対外的にどこかに出ていくときはまず基山駅とかがあるので非常にいいのですが、中で移動するときは非常に不便だと思っているのです。車がないと生活できない。パークアンドライドというのも整理できてない。中に入ってきて、基山町の中でもっと活動したいとき、例えばけやき台の人が図書館に行くついでに車がないとなかなかいけない。今度バスはできるのですが、高齢者のひとり暮らしが増えたときにバスはなかなか上下動とかいろいろあつたりもしますし、1時間に1本しかなかつたりもしますので、そういったところでもっと住民の暮らしということにもっと具体的に目を向けて現状分析をした上での基本計画ということをやらないと絵に描いたもちになりがちではないかなと感じました。

すごくマインドは前向きなのでそこは素晴らしいと思えますし、そこでまた今日の委員の方々の人選も、ほんとにこんな素晴らしい方々に来ていただいといるというふうに思ったのでぜひ今ある資源、あるいはマインドというものを盛り込んだところでいい基本構想ができたらいいなというふうに感じました。

田口委員：ちょっとぶしつけな質問です。今後の10年間の中に合併というのははなから盛り込まないということで考えてよろしいでしょうか。アンケートの中には合併ということもあるし、鳥栖市基山町という話もワークショップの中でも出ているようですからお聞かせいただきたいです。

事務局：合併ということは前提としないで計画はつくっていきます。どういうことかといいますと、合併ということが議論になればそのときに議論していただいて、基山町としては総合計画が出来あがっているわけですからこれをやらしてもらえば合併していいですよという考え方でよろしいと思うのです。ですので、今回は合併は前提としないでつくっていきます。

江渕委員：最後なのですが、人口の計画ですがやはり第4次ときの1万9000人。あれに対する、なぜできなかったかという反省が必要じゃないかなと思うのです。そうしないとまた同じような繰り返しで行政はやっておられると思います。例えば、鳥栖の場合は人口が増えているのです、ご存じのように。あそこは自然増よりも転入者が多いのです。あそこは転入者が毎年500～700人ぐらいいます。ところが基山は毎年転出者が100～300人ぐらい。なぜそう違うのかというのをきちんと調査されればひとつの方法が出てくるのではないかなと思っています。よろしくお願いします。

森田会長：今日は第1回目ということでありまして、お尻の時間が設定されていないので、かといってこれを永遠にやるのかということもありますので、あまり長い会議になると話がくるくる回っていくというのが常ですので、まだ時間がありますので今まででお気づきの点をまたご指摘いただければと思います。再三申し上げますけれども、せっかく林委員が言われたように公表資料と今回の構想との関連性を明確にしてご説明して交渉しないとたぶんパブリックコメントのときに開示できないことが出てしまうと思います。ぜひその辺の根拠をよろしくお願いします。いったんこれで事務局のほうへ。

(4) その他

① 次回審議会の開催時期について

事務局：今日お渡ししております資料の中に今度第2回の会議の日程調整の資料を入れております。前回のFAXかメールで回答していただいた方もいらっしゃると思いますが、5月中旬以降の日程をあらかじめ大丈夫、間違えなく駄目なところは×で出していただきまして、時間のほうは半日確保していただけたらと思います。今日3時間ということでしたけれども13時

－17時、午前中でしたら9時－12時ぐらいで確保していただければと思いますので4月11日までに事務局のほうにFAXかご連絡をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。

事務局：本日は長い間、議論ありがとうございました。今日いろいろお聞きしました意見を反映して次回の会に臨みたいと思っております。またこれから何度も集まっていただくことになるかと思えます。皆さん、お忙しいでしょうけれどもできるだけご都合をつけていただきたいと思います。それでは今日はどうもありがとうございました。

(閉会)

基山町総合計画審議会条例第11条の規定により、ここに署名する。

平成26年7月14日

基山町総合計画審議会 会長

森田昌嗣

委員

田口英信

委員

林真実